



月刊 あじenda 2月

みやこ
京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信
月刊あじendaは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です



京のアジェンダ21フォーラム事務所
〒612-0031
京都市伏見区深草池ノ内町13
京エコロジーセンター2F 活動支援室内
TEL:075-647-3535
FAX:075-647-3536
E-mail:ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp
開室時間:10時~18時45分(木・日休業)
アクセス:京阪電車「藤森」西へ徒歩5分
地下鉄・近鉄「竹田」東へ徒歩13分
市バス・京阪バス「青少年科学センター前」南へすぐ

1月16日 京のアジェンダ21フォーラム設立10周年記念シンポジウム 私たちの未来を描く ~京都が変われば日本が変わる~



フォーラム設立 10 周年の記念シンポジウムは、250 名の参加を得て、熱い空気をはらんだ今後に続くフォーラムの発展を予感させる盛会となりました。今月号の『月刊あじenda』では、記念シンポジウムと、その後の会員交流会の様子を特集号でお伝えします。

■ ご挨拶

京のアジェンダ 21 フォーラム設立 10 周年記念事業の開催にあたり、記念シンポジウムならびに会員交流会「サロン de エコ」に多数のご参加を賜り厚くお礼申し上げます。

当フォーラムではここ数年、活動への事業者のご参加が増えています。記念事業開催当日は、KES・環境マネジメントシステム・スタンダードを取得するなど日頃から環境保全活動に取り組んでおられる企業の環境担当者の皆様にお越しいただき嬉しく思っております。また、市民団体からご参加くださった方々には、久しぶりにお顔を拝見する方も多くあり、懐かしい一時を過ごすことが出来ました。

シンポジウムは、京都の未来を描くという、少し壮大な題目を設定しましたが、パネリストの皆様からは今後のフォーラム活動のヒントになるご発言を多数いただきました。たとえば、「京都らしい未来の姿を描くことが重要である」「環境対策を行っている事業者へのインセンティブのあり方を考える」などは、私たちが活動を進めるに際して、配慮すべきキーワードではないでしょうか。

また、会員交流会では、地産地消の食材やごみ減量に配慮したリユース容器飲料などを利用したフォーラムならではの交流会を開催し、エコ商品の「見える化」をして会員の皆様へアピールさせていただきました。

これからの 10 年に向けて新たなスタートを切ったフォーラムへ、会員の皆様の引き続きのご支援と、活動へのご参加をよろしくお願い申し上げます。

(事務局長 西本雅則)



Agenda Forum 2月のミーティングと主催行事の予定

13日(金) えこまつり WG 運営会議 (ecotone 事務所)
16日(月) 家庭の省エネ相談所
(中京区役所・東山区役所・コープ二条駅)

17日(火) 家庭の省エネ相談所
(下京区役所・南区役所・右京区役所)
3月31日まで バスと電車で eco グルメ!実施中

■ 1月16日 京のアジェンダ21フォーラム設立10周年記念シンポジウム 私たちの未来を描く ～京都が変われば日本が変わる～

会場の京都商工会議所講堂は 250 名の参加で一杯となり、シンポジウムは大成功でした。
シンポジウムの始まりとして、3 名の方から言葉をいただきました。

● 内藤 正明 フォーラム代表

ば日本が変わる～



フォーラムが何に取り組むべきかが明確になっていない設立当時、まさに手探りで活動をスタートしてから 10 年間の過ぎましたが、よくここまで活動が続けることができたと思います。一貫した取組の結果、いくつかの成果も生まれています。とはいえ、温室効果ガスの排出削減量を見ても、京都で 2010 年ー10%の目標達成はまず無理でしょう。しかし、言葉は悪いですが、今の状況こそが、持続可能な社会をどうやってつくっていきけるのだろうかということで、かえって人々の注目がフォーラムに集まる状況をつくっているといえます。設立 10 周年を迎えて、フォーラムは、大々的に再スタートする決心で活動を進めていきたいと思っています。

● 大島 仁 京都市地球環境政策監

～10周年記念シンポジウム
を描く
本が変わる～



フォーラムというパートナーシップの場で、市民・事業者・行政が 10 年間仲違いせず活動してきました。京都市は今日まで、市民や事業者の方々とともに、何を展望し何の行動を起こすか考え実績を積み上げながらここまで来ることができたと感謝しています。さまざまな立場の主体が集まって構成する活動組織として、全国的にみても先頭を走ってきたといえるフォーラムに、これからもパートナーシップでの取組の発展を期待します。コペンハーゲンで今年開催される COP15 を控えて、本日、京都市は、駐日デンマーク大使の表敬訪問を受けましたが、京都に対する世界の注目は大きいとあらためて感じています。

● 北富 洋二 京都商工会議所理事・産業振興部長

～21世紀～



フォーラムには設立時から参画してきました。われわれ事業者との関連でいえば、フォーラムには KES・環境マネジメントシステム・スタンダードという、京都発で今や全国に大きく広がった取組があり、われわれはこのことを誇りに思っています。現在、京都商工会議所では、地球温暖化などへの事業者としての対応を広げるべく、事業所向け環境家計簿の取組を行っています。このような、たくさんの事業者を巻き込んだ取組を推進してくために、フォーラムというパートナーシップ組織の存在はきわめて重要だと考えています。京都商工会議所としても、今後とも積極的にフォーラムの活動に参加していきたいと考えています。

【映像報告「京のアジェンダ 21 フォーラム 10 年の歩み」】

小幡範雄フォーラム幹事長より、映像を用いて、設立時の熱気、立ち上がった各種の事業、そして新たなステージを迎えるフォーラムの現在について報告がありました。映像では、活動に参加した方々が次々と登場し、歴史の振り返りと今後への思いを込めたメッセージを伝えました。



小幡幹事長が手にしているのはフォーラムがその実現を目指す『京のアジェンダ 21』の冊子です。
なお、上映した映像は、当日ご参加いただけなかった方にも何らかのかたちで見ていただけたようにしたいと考えています。

■ 1月16日 京のアジェンダ21フォーラム設立10周年記念シンポジウム

パネルディスカッション 私たちの未来を描く ～京都が変われば日本が変わる～

シンポジウムの後半は、パネルディスカッション「私たちの未来を描く ～京都が変われば日本が変わる～」を行いました。フォーラム内外の 5 名のパネリストから、フォーラムへの期待のこもった自由闊達な発言が展開されました。

● 将来の社会の姿とは？

京都が率先して社会全体の構造転換を！

ディスカッションはまず、^{すぎもと} 枚本コーディネーターの「行き詰まりを見せている今の社会に必要なものは変革が起こった社会の将来像ですが、ポイントはどこにあるでしょう？」という誘導から始まりました。

「フォーラムでは、活動がスタートした 10 年前から社会の根底からの変革が必要という認識が共有されていました。やはり、〈京都が変われば日本が変わる、日本が変われば世界が変わる〉でしょう」「京都市は、今年度、政府の『環境モデル都市』に応募した経験から、ひとつの財産を得ました。応募は京都市にとってゴールではなくスタートです。〈交通〉〈木の文化〉〈ライフスタイル〉の 3 分野を切り口にフォーラムの力も借りつつ、再び全国の先頭に立ちたいです」といった思いが述べられました。

加藤三郎さんから「持続可能な社会のために、経済を軸とした社会構造から転換させたい。『環境文明』という言葉で社会全体のあり方を表現する言葉として考えたい」と、また、上村多恵子さんから「環境に取り組む沢山の京都の企業と連携するためにも、動きを起こすのに鍵となるインセンティブ（動機付け）を具体的につくっていくことが重要でしょう」と発言があり、パネリストの発言がストーリーのある議論をつくっていきます。



【写真】東京からお招きした加藤三郎さん



【写真】京都経済同友会の上村多恵子さん



「パートナーシップが重要なキーワードです。フォーラムの役割は〈つなげる〉ことにあるでしょう。未来と現実をつなげる、活動成果と総合的な政策をつなげる、NGO、事業者、行政、そして地域組織など、いろいろなセクターをつなげる、の 3 つを期待します」「よその地域を知って京都を見る視点が大事です。京都は、滋賀県のような自然共生とも国のいう先端技術とも違う独自の将来像を市民と語り合っていくていかなければならないでしょう」という発言がありました。

続いて、加藤さんから『環境文明』の思想を据えながら社会の再構築を実現しなければなりません。効果の〈見える化〉が、事業者をはじめとした各主体のやる気を引き出すと思います」と提起があり、さらに上村さんから「日本の伝統ともいえる〈足るを知る〉を取り入れて、われわれの生き方や都市経営のモデルを作り直したい」と、持続可能な京都をつくる環境まちづくりの領域が重要だと指摘がありました。

枚本コーディネーターから、ドイツのメルケル首相の〈環境と経済を戦略化する〉という言葉をはきながら、京都においては持続可能な都市の姿として、量的拡大ではなく質的に高める・深める経済の姿を追求していきたいと意見交換の集約があり、また、「パートナーシップを具体化するとき、市民、事業者、行政が三者三様に考えて行動し、また我慢もしてきたフォーラムの進め方と、京都市も活用していきたい。また、金銭的動機ではなく人を動かす仕組みづくりや、じわじわとした意見調整の場づくりが行政のテーマでしょうか」と行政の思いも述べられました。

● 社会構造転換に向けてすべきことは？

経済活動を含めた新しい都市モデルをつくらう！

枚本コーディネーターの次の問いかけは「新しい社会をつくっていくために、われわれはどうすべきでしょうか？」でした。

● フォーラムを通じて実現したいことは？

パートナーシップと交流で京都発のうねりを！

ここに書ききれないほどの発言を受けて、枚本コーディネーターがディスカッションの締めくくりに、各パネリストに対し今一度フォーラムを通じて実現し

(p.4 へ続く)

たいことを求めました。

「環境対策はコストではなく未来への投資という考え方を広げたい。そして、インセンティブの工夫をこらして、事業者の動きをつくっていききたい」「炭素料金制度などの具体化も進めたいところです。経済と環境の領域で、京都経済同友会との連携をぜひ深めたい」「京都は文化もまちも多様で、それゆえ将来像をつくりにくい面もあるが、工夫次第で京都の未来を展望できるはず」「今、京都市は本気です。環境教育に力を入れています、未来を担う子供たちの影響力に期待しています」「京都には千年の〈文化力〉を発揮してもらいたい。東京と交互に交流する機会をつくりましょう」

フォーラムの目指すことは、将来の持続可能な社会の姿を展望し、そこへ向けてパートナーシップで進んでいくこと、という太い軸を会場全体で共有したパネルディスカッションとなりました。

コーディネーター

すぎもと

杵本育生 フォーラム副幹事長／NPO 法人環境市民代表理事／グリーン購入ネットワーク代表理事

パネリスト

上村多恵子 京都経済同友会常任幹事／京南倉庫（株）代表取締役社長

加藤 三郎 NPO 法人環境文明 21 共同代表／（株）環境文明研究所代表取締役社長

内藤 正明 フォーラム代表／京都大学名誉教授／NPO 法人循環共生社会システム研究所代表理事／佛教大学社会学部教授

大島 仁 フォーラム副幹事長／京都市地球環境政策監

田浦 健朗 フォーラム幹事／NPO 法人気候ネットワーク事務局長

（敬称略）



■ 1月16日 京のアジェンダ21フォーラム設立10周年記念 会員交流会「サロンdeエコ」



記念シンポジウムに続いて開催された会員交流会「サロン de エコ」は 150 名の参加で大盛況となりました。活動報告のプレゼンテーションや、パネル展示と説明、参加者同士の意見交換など、充実した会合となりました。

また、リユース瓶の飲料や地産地消の食材の料理をリユース食器で提供するなど、環境に配慮した交流会のスタイルを体験していただきました。



事務局短信

アメリカ大統領の交代で、アメリカの温暖化対策が動き出しました。経済不況を環境産業の促進で乗り越えることが出来るかが今年のキーワード。京都に多くある環境分野の企業の活躍に注目しています。（西本雅則）／ 10 周年記念シンポジウムにご参加いただいた皆様、ありがとうございます。お蔭様で盛況で、また多くの方に当日の感想を提出いただき、感激しました。これからの活動に活かしていきたいと思います。（竹村光世）／派遣切りなど、大変な年明けになってしまいました。（；_；）みんながささやかでも幸せに生きられるような社会にしていきたいですね。（小山直美）／ 10 周年記念シンポジウム特集号をお届けします。正直、当日は予想を超える多数の方がお越しくださって配布資料が足りるか心配なくらいでした。ありがとうございます。（長谷川吉典）／各地の雪の便りを聞くと季節を感じます。それにしても京都の街の雪景色はどうなってしまったのでしょうか。（小西賢人）